

## 平成20年度 社会科部 研究活動のまとめ

南丹・船井小学校教育研究会

<p>《研究主題》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 進んで地域や友達と関わり合いながら、問題意識を持って学習に取り組む子どもを育てる。</li> <li>・ 社会科としての基礎・基本やつけるべき力について、実践を通して考え、明らかにしていく。</li> </ul>
---

第一 回	日時	平成20年6月4日 13:45～16:30
	会場	南丹市立園部第二小学校
	研究の概要	<p style="text-align: center;"><b>【授業研究会と実践交流】</b></p> <p>①公開授業 6年 単元名 「源頼朝と鎌倉幕府」</p> <p>②事後研究会</p> <p>③実践報告 4年（南丹市立園部小学校） 「ごみのしょ理と利用」—ごみしゅう集車がやってきた—</p>
第二 回	日時	平成20年7月23日 13:30～16:30
	会場	かやぶきの里・石田家・小林家（南丹市美山町）
	研究の概要	<p style="text-align: center;"><b>【フィールドワーク】</b></p> <p>① かやぶきの里・美山民俗資料館</p> <p>②小林家住宅（江戸時代大庄屋を勤めた豪農の居宅）「国の重要文化財指定」</p> <p>③石田家住宅（日本最古の農家）「国の重要文化財指定」</p> <p style="text-align: center;">それぞれの見学場所にて説明を受け、見識を深めた。</p>
第三 回	日時	平成20年11月26日 13:30～16:30
	会場	南丹市立平屋小学校
	研究の概要	<p style="text-align: center;"><b>【授業研究会と実践交流】</b></p> <p>①公開授業 4年 単元名 「わたしたちの県」</p> <p>②実践報告 5年（京丹波町立桧山小学校） 単元名 「これからの食料生産とわたしたち」の実践</p> <p>③今年度のまとめ</p>

<p>本年度の研究で明らかにした内容</p>	<p>◇単に調べたことを表現するだけに終わらず、調べたことや考えたことを表現する力（具体的には地域における社会的事象を観察、調査したり、地図や統計資料、年表などの具体的な資料を効果的に活用したりして、調べたことを目的に沿って表現する力や、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手に伝えるように表現する力を育てること）が、新学習指導要領では求められている。しかしながら、このような力は、これまでの社会科において大切にしてきた要素と変わることではない。「考える」「話し合う」活動を充実させるためには、その根拠となる資料が必要となり、その資料を集めるためには「調べ学習」が十分なされなくてはならない。つまり、「考え、話し合う」授業と「調べ学習」は一連の学習過程であり、どれも充実させなければならないものである。</p> <p>◇A or Bの立場を明確にさせた話し合い活動を通して、本時のねらいを達成させるという授業構成は、児童が必然的に自分の考えを持つことになり、またその根拠となるものを明確にしておかなければ話し合いに参加することができない。つまり調べ学習をどれだけ行い、自分のものになっているかが問われることとなり、児童にとって心理的に身近な問題となる。</p> <p>◇「武士と幕府のつながりの強さ」をどこまで理解させるのか、あるいはどのようにすれば理解を深めさせることができるのかということが議論になった。心情面だけで話し合い、理解させようとしても無理があり、科学的または史実に基づいた内容で迫ることも必要であるが、小学校という発達段階から考えて、どこまで追究させるかという問題もある。（中学校との連携も必要）両面での適切な取り扱いが効果的である。</p> <p>◇児童にとって身近な教材を取り扱うことは、「具体性」があつたり、実際に自分の目と耳・五感で感じ取れ、また何度も見られる等の利点があり、興味・関心を深めることができる。同時にその教材を効果的に扱うためには、単元構成または単元の指導計画が児童の学習意欲を高め・学習を継続させるものになっていなければならない。教師の想いが強く出すぎて、教師主導の展開になってはならず、児童発の問題づくり、学習展開を大切にすることが重要である。</p>
<p>来年度への研究課題</p>	<p>◇学習指導要領と関連を持たせた指導案づくり 教師の想いが強く出過ぎると、児童の実態や興味・関心と乖離した授業展開になることもある。「単元設定の理由」に学習指導要領との関連を明記することで、児童の発達段階に応じた、またその学年でつけるべき力を小学校教育の中で系統的に位置づけていくことができる。来年度は、意識的にこのことを実践していく。</p> <p>◇児童にとって身近な教材（距離的・心理的の両面）を開発していく。</p>
<p>その他の研究活動</p>	<p>【府小研社会科研究大会、支部長会への参加】</p> <p>第1回支部長会 5月19日（月） 於 南丹市立園部公民館 ○役員体制 ・研究主題、活動内容、事業計画 協議</p> <p>第2回支部長会 7月4日（金） 於 口丹波勤労者福祉会館 ○事業計画の確認 ・研究大会に向けて ・指導主事による研修 ・支部交流</p> <p>第3回支部長会 9月16日（火） 於 口丹波勤労者福祉会館 ○研究大会に向けて ・指導主事による研修 ・支部交流</p> <p>第4回支部長会 10月21日（火） 於 宇治田原町立田原小学校 ○研究大会に向けて</p> <p>第5回支部長会 11月7日（金） 府小研社会科研究大会</p> <p>第6回支部長会 2月16日（月） 於 口丹波勤労者福祉会館 ○各支部交流・研究大会のまとめ・指導主事助言・今年度のまとめ</p>

